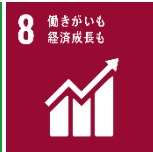
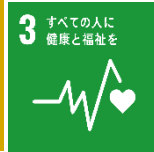


ゴール1：貧困をなくそう

令和3年度
大阪府SDGsビジネス創出支援事業
SDGsビジネスマップ

世界中どこでも 農業が経済を変える



企業名	スパイスキューブ株式会社		
所在地	大阪市西区	資本金	1,000,000円
設立	2018年2月14日	従業員数	4名
企業URL	https://www.spicecube.biz/		
事業内容	植物工場の事業化支援、農業装置の設計開発		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

農業人口減少による食料自給率と高齢化社会、障害者雇用問題、自粛規制中の生活支援などLED照明と養液循環する栽培技術であれば、SDGsに貢献しながら高品質野菜生産が実現できるからです。この栽培技術の普及を企業だけでなく個人の生活まで浸透できればより良い社会に変わると考えております。更に栽培過程で生じる植物の成長について観察写真情報を共有することで、遠隔地に住む想いを寄せるひととのコミュニケーションがIoT装置で簡単にできるようになります。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ 一般企業のオフィスインテリアや個人住宅に簡易的に設置できる農業装置（本棚サイズの植物工場 + 成長記録共有できるアプリケーション）のパッケージ開発販売を行う。

★農業装置のポイント

- ① 100株/月程度の葉物野菜の安定生産が可能 ⇒ 個人や一般企業にとって、農業ビジネスに参入できるチャンス
- ② 無農薬、排水0、メンテナンスフリー ⇒ 従来の畑よりも導入コスト、営農経費を削減して農業が実現
- ③ 一般住宅やちょっとした休憩所のデッドスペースにも簡単設置できる気軽さと扱いやすさ ⇒ 誰でも農業にトライでき、世界中どこでも農業が可能に
- ④ 植物成長を観察記録するアプリケーションの開発も視野 ⇒ 品質改善や思い出につながるデータ蓄積が可能に

SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

SDGsに加え、国内社会課題（就農者現象、食料自給率）も解消できる可能性がある。これらの取組は個人が個々に取り組む流れと企業参入で組織として取り組むダイナミックな流れをつくるのが重要だと考えております。本事業を活用して農業参入する企業を増やすことが経済成長も地球環境にも寄与してくれると想定しております。

OSAKA SDGsビジネスマッチング成果や今後の方向性について

新規事業を検討する大手商社からの相談がありました。農地でなく既存建物を活用する農業モデルに魅力を感じたとのことで、都市型農業を協創事業として本年から事業化検討頂けることになりました。植物工場の生産野菜の6次産業化も視野に入れて相談先企業だけでなく野菜納品先も巻き込んで都市部ならではのビジネスモデルが構築できそうです。今後の取組としては成功モデルを基盤にして拡大していきたいと考えています。

救缶鳥プロジェクト



企業名	株式会社パン・アキモト 関西営業所		
所在地	大阪市中央区	資本金	35百万円
設立	昭和22年12月	従業員数	60名
企業URL	http://www.panakimoto.com		
事業内容	ベーカリーの運営、防災備蓄用缶詰パンの製造・販売、救缶鳥プロジェクト		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

国内のある自治体から賞味期限が切れる備蓄品を廃棄して欲しいと依頼がありました。そんな中、海外の飢餓国に賞味期限が残り少なくなったパンの缶詰を義援物資として贈り届ける事で大変喜ばれる事が判り、プロジェクトを開始しました。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ **パンの缶詰を自分（自社）の為に備蓄しながら同時に社会貢献が出来る「救缶鳥プロジェクト」**を提供。

◀ プロジェクトの流れ ▶

- ① 防災備蓄用として缶詰パンを購入希望者（企業・自治体・個人）に販売
- ② 缶詰の賞味期限が切れる6か月前に購入者へ案内し、賛同を頂いたところから同社が缶詰を回収
- ③ 回収した缶詰を民間の企業や団体を通じて海外の飢餓国や被災地へ義援物資として贈呈。

SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

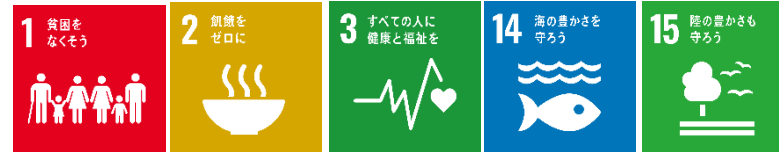
今まで国内外合わせて累計40万缶以上の缶詰が届けられました。本当に必要としている国や地域に責任を持って届けて、更に現地に届けたレポートを賛同者へ通知して、「義援の見える化」を行っています。世界では、1分間に17人が飢餓で命を失い、その内5秒に1人が5歳の誕生日を迎えることなく亡くなっています。当プロジェクトは、日本人のやさしさ、大阪からのやさしさを困っている人たちに届けます。

OSAKA SDGsビジネスマッチングの成果や今後の方向性について

普段接点の無い団体との面談機会を持てた事で、新しい可能性が広がりました。今後も救缶鳥プロジェクトに参画する事によって、SDGsゴール達成に繋がる事を認知していただき、更なる普及に努めたいと思います。

エンドウミートを軸としたプラントベースフードの開発

プラントベースフード・・・植物由来の原材料を使用した食品



企業名	リンクフード株式会社		
所在地	大阪府豊中市	資本金	750万円
設立	2018年8月	従業員数	3名
企業URL	https://www.link-food.com/		
事業内容	食品原料と飼料原料の輸入販売、食品の企画・開発・販売・輸出、食品事業の受託・コンサルタント		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

海外と接点を持ち、食品事業に20年以上携わる中で、世界の食品需給状況を実感として体験、環境調和型へ「食」も産業構造が移り変わる転換期に入ってきた中でいかにして食料の安定供給に寄与するかという視点で、「動物性から植物性」という事業に取り組んでいます。「動物性から植物性」という事業が、結果としてSDGsビジネスに繋がっていました。

人口増加と経済成長による食生活の変化により、タンパク質の需要が増加する一方、必要なタンパク質の供給が追いつかなくなる「タンパククライシス」が懸念されており、昆虫由来や藻由来のタンパク源の開発や細胞培養による培養肉技術の開発が行われている中、既存の肉製品や水産品に近い食品原料を植物性で再現できれば、地球環境、貧困、健康といった社会課題の解決の一助になると捉えています。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ 差別化できる植物肉として、エンドウミートを軸にしたプラントベースフードの開発と供給を行う。

◀ ビジネスモデル・製品のポイント ▶

- ① 自社で原料となる植物性原料の輸入（原料の調達）から最終製品まで携わることで、顧客の要望に柔軟に対応。
 - ② 大豆由来の食品（大豆ミート等）では実現できないアレルギー対応食が実現。
- ※現に欧米では、アレルギーや遺伝子組み換えの観点でソイフリー（大豆製品を含まない食品）がグルテンフリー（小麦等に含まれる「グルテン」を摂取しない）と同列で広がっている。



SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

- ・タンパク源の安定供給により良質なタンパク質の高騰を防ぐ。
- ・効率がよく、良質なたんぱく源を供給することで世界中の人々の栄養不足の解消と健康維持へ。
- ・海洋水産資源の乱獲防止

OSAKA SDGsビジネスマッチングの成果や今後の方向性

- ・プレゼンター同士での交流ができ、新しいビジネスの可能性が芽生えました。（同テーマのプレゼンターはビジネスの相関性が高いです）
- ・共創パートナーとの交流の中で、ビジネスとしての拡大性について共通認識を持て、方向性として間違いないという確信が持てました。同時に、事業を勧めていく上での課題も認識できました。
- ・消費者に直接届く商品の具現化を進めます。